



東京矢高会ニュース

矢高卒業生会東京支部総会が開催される。

五月二十四日(日)東京・御茶ノ水ホテル聚楽で第二十四回矢上高校卒業生会東京支部総会が開催されました。中岡庸修副支部長(十五期)の進行のもと、大羽登支部長の挨拶、当日邑南町から遠路ご参加頂いた石橋良治邑南町長、飯塚修校長、渡辺生紀卒業生会会長の挨拶を頂きました。本年は役員改選に

新支部長就任挨拶

支部長 神田 恵介(十三期)

島根県立矢上高校卒業生の皆さま、元気で活躍のこととお喜び申し上げます。

五月の定期総会で、大羽登前支部長から支部長という重責を引き継いだ十三期生(三十六年卒)の神田恵介です。出身は井原。現在は東京稲城市を拠点としております。もともとは国家公務員で郵便局に勤めていました。今はいろいろ話題になっている国会議員(参議院の政策秘書をやっております)。

この卒業生会には随分前から出席させて頂いておりますが、私が東京に出て来

あたり新支部長に神田恵介(十三期)が選出され承認されました。事業計画会計報告等それぞれ承認されました。

引き続き懇親会が行われ、近況報告など、矢上弁で和やかな内にお開きとなりました。参加者には飯塚校長、渡辺卒業生会会長の配慮で、矢高味噌が記念品として配られました。

左①写真、参加者、前列左から飯塚修校長、沖慶雄(特別会員)、渡辺生紀卒業

ところは百人を超える出席者がいたように思います。最近は少し少なく寂しく感じていました。出席して面白かったといえるような会合にしないと皆さん方も集まってもらえないのではと思っていました。事務局長など役員の方々とは相談し、今年から年一回の総会だけでなく春・秋のイベントも企画したり、和気あいあいと集まれる雰囲気作りをしたいと思っております。

以前は各期に幹事がいてその人が先輩後輩に声を掛けて頂いていました。今度も各期幹事を増したいと思っております。「わしがやっちゃうらうかいのう」という方がおられましたら、事務局の方にご連絡頂けたら幸いです。

生会長、石橋良治邑南町長、中村輝夫

(四期)大羽登(六期)神田恵介(十三期)

一列左から中岡庸修(十五期)下瀬忠枝

稲田 隼、石川義之(五期)服部豊(十

五期)隅川和子(六期)、

後藤勝子(六期)宇津本

由紀子(八期)本田博(十

期)渡辺勤(十一期)

三列左から八田一利

(十五期)三宅光寛

また矢高会の会員同士のコミュニケーションと情報交換ということで、新しく「東京矢高会ニュース」を発行すること致しました。

投稿大いに歓迎ですので何か情報がありましたら事務局までご連絡下さい。

これから矢高会を皆様と一緒に大いに盛り上げていきたいと思っております。どうぞご支援、協力下さいますようお願いいたします。



発行日 平成二年九月一日
号数 第一号
発行 矢上高校卒業生会東京支部
発行人 神田恵介 編集人 三宅良二
事務局 千葉市若葉区若松町
九〇二一〇一五〇三

横畑篤(二期)服部真(十七期)服部俊之(十五期)横昇(三〇期)三宅良二(三五期)椿満男(八期)山田裕三(三九期)、原野未来将(五三期)。山田 勲(十八期)も参加頂きました。

ゴルフと私

中村 輝夫(四期)

私の若い頃は、ゴルフは亡国のスポーツと言われていた。閑人のやることという意味である。金も隙もない私には無縁であった。二十四年前の正月に部下が自宅を訪ねて来た。見れば中古のゴルフ・バッグに中古のクラブ六本を入れて、これを「ゴルフを始めて下さい」とのこと。「とんでもない！絶対にやらない、持つ

て帰ってくれ！」いや、とにかく置くだけ置かせてくれ」押し問答の末、勝手に置いて帰ってしまった。

どうも様子がおかしい。密かに探ってみると、後に副社長になられた上司が、「俺がやれと言ったら、中村は絶対にやらない、君が中村を説得しろ」と部下に命じられたらしい。二人の間で立て、気の毒な部下は困り抜いていることがわかった。この野郎！ならばやってやろうじやないか。置いてあるボールを打つだけじゃい

か。いとも易しいことだ。

その年の四月五日、会社の創立記念日の休日に、本社全体のゴルフ・コンペがあり参加した。なんてことはない和高を括つての出場である。

ところがである。止まっているボールなのに何回クラブを振っても当たらないのである。しかも、パートナーは社長で、一組目である。全員がグラグラ大笑いで大喜びである。向こうを見ているから蹴飛ばせと、はやされる始末、上がつて見れば

スコアは百八十でビリだった。

やってみて分かったことだが、ゴルフは自分の本性が見えるスポーツであり、一番言うことを聞かぬのは自分であり、山あり谷あり人生そのものであることだ。副社長は既にこの世にはなくその意図は知る由もないが、手遅れとなつてガン病床に伏せておられた時、お見舞して、ゴルフをやらせて頂いたお礼を申し上げたら、無言で笑つておられた。

感謝また感謝である。ご冥福を祈りながら。



2009.05.24



2009.05.24



2009.05.24

舌足らずの弁

椿 満男(八期)

「矢高ニュース」の原稿依頼を受け、何か相応しい話題が無いのかと思いつき悩むばかりの空しい日々が過ぎていた。そんな時、ふと頭に浮かんだのは「剥製」という松本清張の短編だった。大要をを紹介すると、「鳥寄せ名人」という老人が林の中から鳥の剥製を取り出して自分の周囲に並べ、編集者に写真を撮って記事にするよう促す。またこの編集者は、かつての有名な美術評論家にお義理の原稿を頼む。忘れた頃に分厚い原稿が届き、編集長がばらばらと4、5枚読んで、これは使え物にならないと没原稿の籠に投げ入れる。彼は、鳥寄せ名人といふこの評論家のことを、これは人間の剥製ではないかと考える」という話である。

年若い、哀れな人生の末路がこの短編の主題である。我が頭も老化し、これらの剥製の人物と大差ないな、と悲哀を感じたのである。

気を取り直し、私が上京した昭和三十年代初期の、支部会の基礎ともなった諸先輩との忘年会のことに少しふれてみる。実は、自分の回想記その三(二〇〇一年)で書いたものがあり、ズルしてその一部を抜粋して、この魂胆。

「私が先輩たちと面識を得たのは、昭和

和三十二年の忘年会に前田君と出席したのが始まりで、この宴席には山本利寿参議院議員も同席された。

以後可能な限り忘年会を兼ねた同窓会出席。集まる人数は十四、五人だったが、毎年続いた。当時から今日に至るまで一貫してお世話になった松川さんや山田さん三浦さんらの諸先輩、それに親友の前田君らの協力で東京支部結成もなった。この時代の参加者で前記の各氏の奥さん寺本さんは、今日でも支部総会の常連に名を連ねると記している。

しかし近年は往時の先輩の姿は見かけなくなつた。温かく接してもらつた山田さんは逝去との報を奥様から受ける。寂しい限りだ。私も加齢の身でいつ迄出席できるのやらと案じるが、同郷で矢高卒という連帯感や一体感なるだけ長く味わいたいと願っている。

硫黄島とふるさと

山田 裕二(三十九期)

昨年十一月、両親と共に硫黄島降り立った。母の父である私の祖父、山田洋一は昭和二十年三月硫黄島で戦死。祖父と共に数方の日本人とアメリカ人の英霊が眠っている。硫黄島遺族会による慰霊の旅は、我が家として初めての参加であった。

硫黄島は今でも島の一部がアメリカの土地であり、遺族会の尽力と各省庁の協力がなければ民間人は原則立ち入ることが出来ない、未だ閉ざされた孤島だ。埼玉県自衛隊入間基地から自衛隊輸送機で約二時間の南の島は、十一月というのに真夏のような、日の光が肌に突き刺さるような気候だった。

遺族会の参加者は六十代から八十代の方を中心で、私のような孫の世代も含め約五十名一行が一周約二十二キロの小さな小さな島に降り立った時から、私は無性に方角が気になつていった。「島根の、日貫の方向はどっちなんかのう。」天山という英霊の丘で、「ふるさと」を合唱した時、その思いが一気に高まった。

「うさぎ追いかの山……」多くの人が嗚咽で唄えない。私も会ったことのない祖父の無念さを思うと、涙が溢れて声が出なかつた。子供の頃幾度となく聞き、唄つた歌が、こんなにも、悲しい曲だとはいふ。...

何千キロも離れた、水もない葉もない灼熱の孤島で、帰りがたかつたらう、ふるさとこの水、飲みたかつたらう、家族にもう一度会いたかつたらう。そう思いながら、祖父が所属していた隊の慰霊碑に、ふるさと日貫の水を流し供えた。

私はこれまで、祖父が硫黄島で戦死したことを知ってはいたが、祖母にも母にも、自分から祖父について、あの戦争につ

いて、話を詳しく聞くことはなかつた。子供ながら聞いてはいけけない、触れてはいけけないことのように感じていたのかも知れない。祖父は享年数えて四十三歳であつたそうだ。今の私と同じ年である。

『わが父も硫黄島の土の上をいまだにあまたの軍機飛び交う』母が祖父を思い、平和を願ひ歌つた短歌だ。

今、私たちは当たり前のように繁栄と平和を享受しているが、この平和は祖父達世代のあまりにも悲惨な出来事の上にあることを強く感ぜずにはいられない。しかし、その平和は残念ながらも不安定で危ういものだ。祖父達のいたみと思いを無駄にしない為にはどうすればよいのだろうか、自分たちに何が出来るのだろうか。硫黄島の旅は、祖父たち英霊から平和について、ふるさとについて問ひかけられ、改めて考えさせられた旅であつた。

2. ページ写真は懇親会での一場面です。各期毎に前に出ていただき近況報告をして頂きました。

①マイクをにぎる渡辺生紀卒業生会会長と中村輝夫(四期)

②八期の参加者、左から椿満男、稲田隼、宇津本由紀子

③十五期の参加者、左から八田一利、服部豊、服部俊之、中岡庸修

第2回東京矢高会

ゴルフコンペのご案内

昨年に続き、ゴルフコンペを開催します。大勢のご参加をお待ちしております。(えつと来ちゃんさい)

日時 十月四日(日) 集合 午前八時

スタート 九時一分

場所 川越グリーンクロア

埼玉県川越市古谷本郷八六五一

Ⅱ〇四九一―三六―二二二

美女木J.C. 高速埼玉大宮線与野IC

クラブバス JR南上谷駅右手側

埼玉県信用金庫から運行

(お迎え 七時 七時四十五分)

プレイ代金 一、五〇〇〇円

(食事代別)

懇親会費 三、〇〇〇円

国権の最高機関

国会を見てみませんか

会員の皆様の親睦をはかる、新しいイベントをこれから企画していくこととしております。その第2弾として、衆議院選挙も終わり政権交代?などで混乱する国会議事堂見学を計画しました。自分の選んだ議員がどんなところで活躍しているのか、もしも中で会ったら一声掛けられるかもしれません。国会は何と云っても国権の最高機関です。ぜひこの機会に

見学してみませんか。

●平日コース

十二月三日(月)

集合時間 午後二時三十分

●休日コース

十二月十四日(土)

集合時間 午後二時三十分

見学場所(予定)

国会議事堂(参議院 憲政記念館

首相官邸(門の外からの見学)

国立国会図書館

●集合場所 参議院議員会館玄関前

平日早く来られた方は六四〇号室

(長谷川憲正)にお越し下さい。

(受付で手続きが必要です。)

見学時間は午後一時四十五分〜十七時

終了予定です。終了後自由参加で懇親会を予定しています。

●交通案内

東京メトロ半蔵門線 有楽町線 南北線「永田町」駅下車 国会議事堂方面出口「一番出口」参議院議員会館

は国会議事堂の裏手の道路を渡ったところです。現在、立替工事中です。

矢高卒業生会東京支部

年会費のお願い

本文部の経費は、皆様方からの会費寄付金で運営されております。どうぞご協力ください。よろしくお願いいたします。

致します。

昨年までは年会費千円でしたが、本年度より一口千円として何口でもお納め頂くことができるよう総会で決まりました。各行事の時には申し受けますが、郵便局の払込用紙をご利用頂きますようお願い致します。

会費一口千円 何口でも

口座番号〇〇一四〇〇〇一七二二七七

口座名 矢上高校卒業生会 東京支部

平成二十一年会費納入(芳名

宇津本由紀子(八期) 五口五千円

矢上の方言

「ごもしゅう言います。みんなしも都会へ出んさつてから、長こうなるけん、矢上弁を、はあ忘れとんさろう思つて、こがあなゴナをこしらえてみました。まずはじめは、「ぼえー」覚えとりんさるかいのお。こまい時や、よう言よりんさつたろうが。こりやあ、標準語で言やあ「怖い」やら「恐ろしい」かいのお。まあちよつとニエアンスちゅうやつがちうとるような気がするがのお。

「めく」東京で言う「めげる」とはちよつと違う「めく」。最近使いんさつたことがあるかいのお。

「しゅわい」。思い出しんさつたかいのお? 歳しゅわい取りや身がらも「しゅわ

い」し、何にゆうしても「しゅわい」なるけん、大事にしちゃんさいよ。

編集後記

異常気象の影響か、いくぶん過ごしやすい夏です。西日本では豪雨。静岡では地震と、大きな災害が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。お伺い申し上げます。

神田恵介新支部長の発案で決まりました「東京矢高会ニュース」。中村輝夫先輩、椿満男先輩、山田裕三さんには原稿をお願いしましたところ、快く引き受けて頂き本当に有難うございました。掲載の写真は渡辺勤先輩にお送り頂いたものです。有難うございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

年に2回の発行予定です。皆様からの原稿をお待ちしております。また個別にお願いすることもあろうかと思いますが、その節にはご協力の程、どうぞ宜しくお願いいたします。十分注意しておりますが、誤字脱字や、見づらいところもあろうかと思いがちです。どうぞお許し下さい。お気づきの点がありましたら何なりと申し付け下さい。

季節感がなくなつたとはいえ、やはり暑い夏。こつこつと残暑が厳しくなることでもあります。どうぞご自愛下さい。